D 134　女子大生のプロポーションに対するイメージ　第５報
シルエッター写真を用いた好まれるプロポーションの心理学的測定

関東学院女短大○杉田洋子　山陽学園短大　江口玲子　就実短大　杉本智枝子　文教大女短大（非）佐藤由紀子　東京家政大家政　知野恵子　川村短大　茂呂裕子　田中美智　安盛都子　山田寛　共立女大家政　小林茂雄

＜目的＞プロポーションの好まれ方は、自己の持つ意識と関わりを持つ可能性があり、それらの関係を分析するためには好ましさの程度を把握しておく必要があるが、他者のプロポーションを実際にどのように評価しているのかを測定したものは少ない。そこで、好ましさの程度についての心理学的な尺度構成を試み、個々の好みの相違も検討した。
＜方法＞女子短大生100 名のシルエッター写真で、身長がJIS 規格のＲ±3cm の範囲内、ローレル指数、ベルベック指数が中型の10名の写真を刺激とした。一方、被験者201 名は10名を基準に１組とし、呈示順序が組毎にランダムとなるよう刺激を組合せ、スライド映写により一対比較法を用いてプロポーションに対する好みを測定し、尺度化を行った。
＜結果＞単純集計から全体の傾向を見ると、最も好まれた刺激（身長156.5cm、体重49.5kg、6.6 頭身）は、100 点満点で91.1～93.7点の高得点を取り、大学間の差が最も少なかった。６校全体の平均得点では１位の92.0点が２位の78.7点を離し、女子大生のプロポーションに対する好みの画一化がみられる。３位以下では１位、２位に比べて各大学間の得点のばらつきが大きく、好ましいプロポーションと、そうでないプロポーションとでは、判断する基準が異なると思われる。また、最も８頭身に近い刺激（7.0頭身）が、好ましい判定では４位であることなどから、好悪の判断は身体の寸法のみでなく、さまざまな因子によって意識されると考えられる。